

RACE REPORT



**SUPER
FORMULA**

Round.08 **SUGO**

第8戦 スポーツランド SUGO

2026 年8月9日 (日)

決勝

天候：曇り 路面：ドライ

#38 阪口 晴南

決勝 リタイア

#39 大湯 都史樹

決勝 15 位

8月8日(土)に行われた公式予選では、2台がともにノックアウト予選のQ3に進出する手ごたえを得つつも、超僅差の争いのなかQ3進出はならず、阪口晴南は10番手、大湯都史樹は11番手という結果で終えたSANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING。公式予選までに仕上げ

た手ごたえからすれば不本意とも言えるグリッドから決勝レースを戦うことになったが、スポーツランドSUGOでのレースは高いアベレージを保ち、流れをうまく掴むことができればポジションアップも決して不可能ではない。チームは強いクルマを作るべく、朝のフリー走行2回目に臨んだ。

PRACTICE フリー走行

8月9日(日) 9:30～10:00 天候：曇り 路面：ドライ
ベストタイム #38 阪口晴南 1'08.007 / #39 大湯都史樹 1'07.872

予選日の前から厳しい暑さとなっていたスポーツランドSUGOだが、8月9日(日)の決勝日は朝から曇り空。暑さは残ってはいるもののわずかに過ぎやすく、気温28度／路面温度41度というコンディションで午前9時30分からフリー走行2回目が始まった。第3戦が悪天候だったこともあり、1大会1レース制で、決勝日のフリー走行2回目が行われるのは今シーズン初めてのことだ。

SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGの2台は決勝レースに向けて燃料を多く積んだ状態でのフィーリングを確認するべく、それぞれ3回のピットアウト～インを行いながら周回。午前10時のチェッカー後は、メインストレート上で大事なスタート練習を行い、フリー走行2回目を終えた。

16周を走り、1分08秒007というベストタイムで終えた阪口だったが、表情は明るくない。順位は20番手だ。「良くなかったですね。決勝日のフリー走行で感触を見られるのは今年初めてで、ロングランのペースを確かめられると思ったのですが……」と阪口。今季は富士以外決勝ペースが良かったことから、少なからずショックがあったが、逆に「決勝前にこれが確認できて良かった」とポジティブに捉えた。

一方の大湯も1分07秒872というベストタイムで順位は18番手。「そこまで悪い感触ではないですが、良くもないし、僕が求めている手ごたえではなかったです」といまいとつな表情。「この後、決勝前にまた雰囲気を変えていこうかと思います。このままだと何も得られずに終わってしまいます」と前日の予選後も「何かを掴みたい」と語っていた大湯は決勝へ向け改善を期待した。

SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGにとっては強いクルマづくりへ課題が多いフリー走行となった。



RACE

決勝レース

8月9日(日) 14:20~15:29 天候:曇り 路面:ドライ
ベストタイム #38 阪口晴南 1'07.772 (17L) / #39 大湯都史樹 1'07.054 (18L)

しかし、力走をみせていた阪口に突然のトラブルが襲いかかった。27周目、馬の背立ち上がりで突然エンジンが停止し、SPコーナーでストップしてしまった。阪口は悔しいリタイアとなった。

この阪口のストップ、さらに#97 ロマン・スタネックのコースアウトでレースはセーフティカーランとなったが、この直前、大湯は後方を走っていた#28 小林にヒットされてしまうシーンも。幸いスピン状態からふたたびコースに戻ることはできたが、大湯にとっては厳しいレース展開となった。

午後2時20分から行われた第8戦の決勝レースは、前日の予選同様雲が多くなり、気温、路面温度とも午前のフリー走行から大きく低下した。フォーメーションラップ開始時のコンディションは気温26度/路面温度35度というもの。フリー走行2回目からの温度変化にも対応が必要となった。

SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは、阪口が10番手、大湯が11番手からスタートを切った。2台ともにスタートは課題を抱えるものとなったが、中でも位置取りが悪かったのが阪口で、ふたつポジションを落としてしまい12番手に。一方、大湯はひとつ順位を上げ11番手につけることになった。4周目、1コーナーで7番手を争っていた#野村勇斗がコースアウトしたことで、大湯は9番手、阪口は11番手に浮上した。

レース前に予想されたとおり、序盤はオーバーテイクはかなり少なく、緊迫した戦いが続けられていった。この流れを変えるのは、やはり戦略。SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは、まずはピットウィンドウがオープンした13周で、比較的好ペースで9番手を走っていた大湯をピットに呼び戻した。作業に時間がかかってしまうが、ここでさらに思わぬアクシデントが起きた。

大湯がピットアウトすべく発進した瞬間、隣のピットに入ろうとしていた#8 山下健太が大湯の目の前に出現してしまった。お見合いのようなかたちになってしまい、両者ともにタイムロス。さらにレース後半、大湯にはアンセーフリリースによってペナルティが課されることになってしまった。

一方、阪口は序盤にライバルたちがピットインしたことで少しずつ順位を上げていき7番手まで浮上したが、敢えて前方が開けた状態で走ることで決勝でのペース改善にも取り組んでいった。

セーフティカーは36周目に退去したが、その後大湯は#28 小林をオーバーテイクし返すなど力走をみせたものの、それ以上の順位アップはならず、最後はピット作業時のタイムペナルティも課され15位でレースを終えた。

まさかの無得点のレースウィークとなってしまったSUGOでの第8戦。次戦富士での2レースでふたたび好結果とポイントを取り戻しにいく。



COMMENTS

ドライバー／監督コメント



38 阪口 晴南 SENA SAKAGUCHI

「悪いスタートではなかったのですが、流れも悪かったですし、課題があるものとなりました。レースが落ち着いてからは SUGO らしい展開になりましたが、ペースは少し苦しかったです。そんな中で、戦略も考えセオリーではないにせよ、単独走行で走りピットインを遅らせることにしましたが、ペースが良くなる時もあったものの、余裕はありませんでした。結果的にトラブルでストップすることになってしまいましたが、課題が多かった富士に対して、SUGO はチャンスだと思っていたので悔しいです。次の富士でしっかり巻き返さないといけませんし、トラブルフリーで今シーズンの残りの2大会4レースを戦えるようにしたいですね」



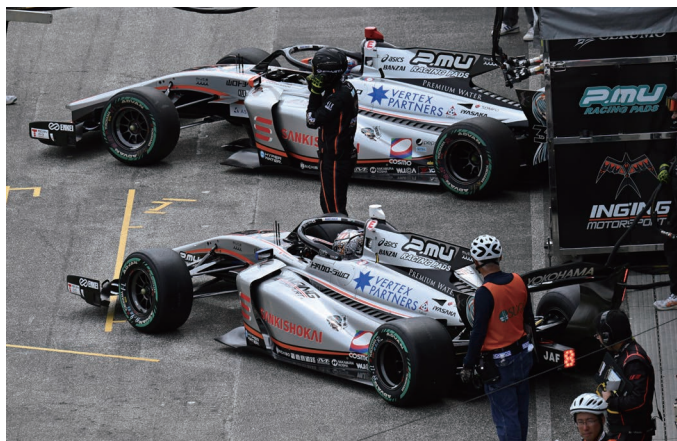
39 大湯 都史樹 TOSHIKI OYU

「スタートダッシュから想定以上に悪く課題となりましたが、ポジションは上げることができました。その後は前に引っかかったこともあり、ミニマムでピットインしたものの、ミスやアンセーフリリースがあり、勝負権を失ってしまいました。ピットアウト後もまた引っかかり、途中、セーフティカーランの前に #28 小林選手にヒットされてしまい、セーフティカーランでタイヤも苦しくなったりと、どうしようもない状況になってしまいましたが、なんとかうまく走れたと思います。終盤までも小林選手と争うことになりましたが、『知らないぞ』と思いながら（苦笑）チェッカーを受けることになりました。次戦富士までの間に SUPER GT もありますね」



立川 祐路 監督 YUJI TACHIKAWA

「阪口選手は苦しいスタートポジションから少しずつ順位を上げようと頑張ってくれましたが、残念ながらトラブルでストップしてしまいました。原因についてははっきり究明しなければいけません。大湯選手についてはフィーリングも悪くなく、ペースも比較的良かったのでアンダーカットを狙いましたが、ピットでのミス、さらに隣の KCMG さんとの交錯もあり、迷惑をかけてしまいました。申し訳なかったですし、お互い損をしてしまったので気をつけなければいけません。残念ながらその後も展開には恵まれず、ペナルティもあり 15 位と苦しいレースとなりました。次はふたたび富士なので、そこでリベンジできるよう頑張ります。応援ありがとうございました！」



RACE REPORT

RESULT リザルト

第8戦スポーツランド SUGO 決勝結果

Pos.	No.	Driver	Car	Engine	Laps	Total Time	Gap
1	14	福住仁嶺	NTT docomo Business ROOKIE SF23	TOYOTA/TRD 01F	51	1h05'17.129	
2	1	岩佐歩夢	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	51	1h05'17.634	0.505
3	65	I. オオムラ・フラガ	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	51	1h05'18.068	0.939
4	6	太田格之進	DOCOMO DANDELION M6Y SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	51	1h05'21.937	4.808
5	16	野尻智紀	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	51	1h05'23.267	6.138
6	5	牧野任祐	DOCOMO DANDELION M5S SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	51	1h05'25.760	8.631
7	36	坪井翔	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	51	1h05'26.380	9.251
8	37	S. フェネストラズ	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	51	1h05'27.104	9.975
9	19	Z. オサリバン	WECARS IMPUL with SDG SF23	TOYOTA/TRD 01F	51	1h05'29.394	12.265
10	64	佐藤蓮	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	51	1h05'31.290	14.161
11	3	L. ブラウニング	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	51	1h05'31.575	14.446
12	7	小林可夢偉	KDDI TGMGP TGR-DC SF23	TOYOTA/TRD 01F	51	1h05'32.243	15.114
13	12	小出峻	ThreeBond SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	51	1h05'34.485	17.356
14	8	山下健太	KCMG Cayman SF23	TOYOTA/TRD 01F	51	1h05'52.281	35.152
15	39	大湯都史樹	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	51	1h05'56.981	39.852
16	22	松下信治	DELIGHTWORKS SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	51	1h05'58.524	41.395
17	10	Juju	HAZAMA ANDO Triple Tree SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	51	1h06'01.887	44.758
18	53	C. プルツ	TEAM GOH SF23	TOYOTA/TRD 01F	51	1h06'02.001	44.872
19	9	G. アレジ	KCMG Elyse SF23	TOYOTA/TRD 01F	51	1h06'02.623	45.494
20	50	野村勇斗	San-Ei Gen with B-Max SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	51	1h06'05.959	48.830
21	28	小林利徠斗	KDDI TGMGP TGR-DC SF23	TOYOTA/TRD 01F	51	1h06'18.069	1'00.940
以上完走							
	4	笹原右京	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	27	31'28.466	24 Laps
	38	阪口晴南	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	25	28'41.583	26 Laps
	97	R. スタネック	ナビクル Buzz MK SF23	TOYOTA/TRD 01F	25	29'22.136	26 Laps

ドライバーランキング (上位)

Rank.	No.	Driver	Total
1	6	太田格之進	105
2	1	岩佐歩夢	59.5
3	14	福住仁嶺	58
4	65	I. オオムラ・フラガ	51
5	5	牧野任祐	41
6	36	坪井翔	37
7	37	S. フェネストラズ	34.5
8	39	大湯都史樹	31
9	16	野尻智紀	30.5
10	38	阪口晴南	27

チームランキング (上位)

Rank.	Team	Total
1	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	133
2	VANTELIN TEAM TOM'S	71.5
3	TEAM MUGEN AUTOBACS	69
4	PONOS NAKAJIMA RACING	59.5
5	NTT docomo Business ROOKIE	55
6	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	54
7	TEAM IMPUL	24
8	REALIZE KONDO RACING	19
9	DELIGHTWORKS RACING	16
10	ThreeBond Racing	11